



ライオンズクラブ

## 家族会員制度のご案内

奉仕で築く平和な社会



ライオンズクラブ国際協会332-B地区

〒020-0022

岩手県盛岡市大通3丁目6-12

開運橋センタービル4-7号

TEL 019-621-1415・FAX019-621-1420

E-mail:office-332bmorioka@almond.ocn.ne.jp

http://www.lc332b.jp/

## 地区ガバナーから、メンバーご家族の皆様へ

今期(2008～2009)のガバナーテーマは「愛」、重点目標は「会員増強・献血の推進・青少年の健全育成」の三つを掲げています。

勿論、最大の課題は「会員増強」ですが、減少一途の現況に歯止めをかけるだけでなく、今まで未踏であった家族会員の入会を促進することによって大幅な会員増強を実現したいという強い決意であります。

時を同じくして、332複合地区MERL委員会では3年間で150%増強するという目標を立て、それに挑戦する「チャレンジクラブ」の募集を行いました。

又、国際本部ではGMT(グローバル・メンバーシップ・チーム)を編成して世界的な会員増強推進体制をつくりました。

332-B地区としてはその具体的推進策を次のように決めました。

- 一般会員・女性会員・家族会員を中心に増強を図る。
- 数値目標として、20%増を必達目標、30%増を努力目標とする。
- この初年度に20～30%の拡大を実現し、3年目に50%クリアーすることを目指す。
- 但し、家族会員の大幅増強を推進する為には経済的・精神的・時間的負担などを軽減する対策を講じる。
- 現行の国際会費の半額・複合会費の半額は変更できないがB地区として軽減化できる負担金は見直す。
- 例会やアクティビティへの出席は家族会員は適宜とし、出席報告からも除外する。
- 会員大幅増強体制として複合地区MERL副委員長である副地区ガバナーをリーダーとし、常任名誉顧問とZCで構成する会員増強プロジェクトを発足する。
- 家族会員を正会員と認める国際会則には疑問もあるが、「小異を捨てて大同につく」視点に立ち、又、家族会員の利点を優先的に考える「プラス思考」をもって対処していく。

332-B地区が全クラブ挙げて家族会員拡大に取り組み、必達目標の20%増強を実現して2,000人の大台に復活することによって不退転の決意で対処していくことをお約束すると共に、会員各位のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

2009.1.7

ライオンズクラブ国際協会332-B地区  
地区ガバナー L.米谷 春夫

## 家族会員の入会申込みと登録

### 【家族会員の入会申込み】

各クラブの入会申込書と家族証明用書式に必要事項を記入し、各クラブ幹事に提出して下さい。

尚、証明用書式については、役員必携のP214、217の部分のコピーして下さい。

### 【家族会員の登録】

#### 1.WMMR(月例会員報告システム)

まず、新入会員報告と同時に家族会員であることを報告する。

入力後、WMMRより出力の「Family Unit Report」をキャビネット事務局へ提出する。

※入力方法等は、B地区ホームページ「家族会員の入会報告方法」を参照下さい。

#### 2.ServannA

ServannAでは新入会員(正会員)として通常の登録をする。キャビネット事務局では、クラブからの「Family Unit Report」をもとに、新入会員を家族会員として登録する。

※ServannAでの家族会員登録は、まず、クラブがWMMRでの家族会員報告を完了していることが必須です。



## 国際プログラム「家族会員制度」とは？

### Q1 家族会員制度の目的は？

国際プログラムである家族会員は

- 家族と共にボランティア活動を地域社会に広め奉仕の精神を涵養する。
- 家族の入会により会員増強を図る。
- 家族を対象とする特別会費の下に、家族が招請を受けてライオンズクラブに入会する機会を提供すると言う目的を持っています。

### Q2 家族会員になれる人はどんな人？

- 家族会員とは、同一世帯に住む成年者とし、有資格者の定義は下記の通りです。  
親、子供、配偶者、企業経営者、叔父、叔母、従兄弟、祖父母、婚姻による親戚関係、養子縁組による家族全員及びその他の法的扶養家族。

※ クラブ幹事は、家族会員となる資格条件を満たしていることを、家族から提示される証拠書類により確認しなければなりません。

※ 家族会員が世帯から独立した場合は、通常の会費がクラブに請求されます。

### Q3 家族会員は、何人まではいれる？

- 家族会員は最高4人までです。  
(1世帯につき5人までがメンバーになれます)

### Q4 例会への出席は？

- 家族会員は出席は任意となります。  
但し、代理出席は可能です。

### Q5 家族会員の会費は？

(子会員一人当たりの会費)

- 国際会費(半額)で、年19.50ドル、為替レートが100円の場合は、年額で1,950円
- 複合地区会費(半額)は、年間780円です。
- 地区会費は、年額1,000円
- 地区大会費、青少年対策、緊急援助等々の会費は全額免除となります。
- 年会費の総額は、3,730円となります。(但し、為替レートにより変動します)
- ゾーン会費、クラブ会費は、各ゾーン、各クラブが決めます。

### Q6 家族会員の権利は？

- 家族会員はクラブメンバーでの決議に投票する権利をもち、また地区年次大会や国際大会の代議員になることもできます。
- 家族会員はクラブ及び地区、国際レベルの役員になれます。
- ※ 家族会員は正式なライオンズ・メンバーであり、すべての権利を持っています。

### Q7 家族会員制度は期間限定のものですか？

- 家族会員制度は、2007年1月にスタートし、ライオンズ会則の一部として可決された無期限のプログラムです。



# 家族会員に関する Q&A

## Q1. 今年はなぜ、家族会員なのか？

A1. 国際本部では3年前に家族会員制度を定めました。しかし、日本国内では一部の地区以外はほとんど取り組んでできませんでした。しかし、今年はタイのパタヤでのガバナーエレクトセミナーにおいて、会員の大幅拡大を図るには家族会員の取り組みが必須というコンセンサスとなり、日本全国34人のガバナーが一斉に取り組むことになりました。

## Q2. 家族会員よりも一般会員（世帯主の会員）の増強こそ優先ではないのか？

A2. その通りです。  
従来の通り、世帯主である我々同様の一般会員を増強することが最優先です。次には、まだまだ比率の低い女性会員（世界では20%・日本は8%・B地区は6%程度）の増強です。しかし、これだけでは昨今の経済事情からも大幅な増強は困難です。  
従って、今まで未踏であった家族会員の入会を強力に促進することによって大幅な増強が可能と考えました。家族会員を増やすことは邪道ではなく、非常に望ましい状況を生むはずと思っています。

## Q3. 家族会員は単なる「数合わせ」の対応ではないのか？

A3. 正直、私も最初は自問自答しました。しかし、良く考えてみますと家族を入れて困ることがあるのでしょうか？  
金銭的負担も精神的負担も不利益も支障も皆無ではないでしょうか。  
家族が入会すれば、ライオンズクラブへの理解も高まるでしょう。  
例会や事業に参加する場合も喜んで送り出してもらえますでしょう。  
いつでも代理出席が可能になります。  
自分が高齢で退会する時もスムーズに後継者に引き継げることでしょう。  
ライオンズに全く無関係無関心な人たちを入れるのであれば単なる「数合わせ」という批判も甘受しなければなりません。  
しかし、家族を入れるのですから、「数合わせ」と批評するよりも、その良さや利点を理解すべきと考えます。

## Q4. 家族会員の義務と権利は？

A4. 義務は社会奉仕に理解と協力をすることですし負担金を支払うという義務もあります。例会などへの出席も正会員である以上は義務ですが、家族会員は免除されるという特例になっています。  
一方、権利は既存の我々会員同様に正会員として認められているので、国際大会や地区大会などでの投票権を有するということです。

## Q5. 負担金はいくらか？

A5. 国際会費は半額の19,5ドル（1ドル100円として1,950円）、複合会費として半額の780円、地区会費として1,000円です。これを合計しますと、現状では3,730円ということになります。

## Q6. クラブ会費はいくらにすれば良いのか？

A6. それはクラブごとに決めれば良いことですが、キャビネットとしては経済的負担を最小限にして多くの家族会員を拡大したいと考えていますので、負担金の3,730円に若干プラスした4,000円程度か？  
或いは既存の会員の会費を減額して一世帯あたりの会費が現状以上には増えない金額にするか？、いずれかを希望しています。

## Q7. 家族会員の出席義務は？

A7. 正会員である限りは例会やアクティビティに出席する義務がありますが、例会の為に自宅が無人になるという訳にもいかないでしょうから、出席は免除ということにしています。  
但し、いつでも代理出席は出来ますし、事情が許す限りは2人で出席することをお勧めします。  
出席率は家族会員の数をメイクアップに含め計算してください。

## Q8. 家族会員の入会資格は？

A8. 同居していることと成人者であることの二つであり、一世帯あたり4人までが条件です。但し、同じクラブに入会するということになります。

## Q9. 家族会員のメリットは？

A9. ①現在の会員も高齢化してきています。いつかは病気などでの退会も避けられません。ところが、息子や後継者が家族会員として入会していれば円滑なバトンタッチが出来ます。  
②現在でも父親が入会している為に息子が遠慮して入会していないというケースがあります。しかし、家族会員であれば金銭的負担も精神的負担もなく、二人が一緒に入会できることとなります。  
③後継者が無理であれば奥様に入会してもらおうのがベターです。奥様のライオンズクラブに対する理解と関心は必ずや深まることでしょう。  
④家族会員が入会していればいつでも代理出席は可能ですし、家庭の事情が許せば一緒に出席すれば良いでしょう。  
⑤家族会員にならなくても家族例会には出席していることと思いますが、家族会員になれば一層の参加意欲も高まるでしょう。

## Q10. 逆にデメリットはないのか？

A10. その心配はゼロだと確信します。  
①家族会員の負担金は年間4,000円弱ですから金銭的負担感も殆どないと言って良いでしょう。  
②例会やアクティビティへの出席は都合の良い時だけで良いのですからその負担もありません。  
③役員に就任すれば、その負担は出てくるでしょうが、それは各クラブが家族会員の役員就任是非を協議すれば良いことであり、「役員就任は免除する」と会則で決めればその負担もなくなります。

## Q11. それにしても、今年の会員拡大20%増の必達目標は過大ではないのか？

A11. 「小さな目標には人を奮い立たせる魔力はない」と言われます。

小さな目標では、従来からの延長線上の発想しか生まれず、思い切った施策や本気になった取り組みができないと考えました。  
そこで、敢えて必達目標20%増、努力目標30%増という大きな目標を掲げました。一般会員と女性会員増強を優先に、更に家族会員に熱意を持って取り組むことにより20%増は必ず達成できると信じています。

## Q12. なぜ、敢えて数値目標を定めたのか？関係者に過大なプレッシャーや苦痛を与えるのではないのか？

A12. 楽しいはずのライオンズクラブが苦痛になるとしたら私の本意ではありません。  
しかし、だからと言って目標があいまいでささやかなものであって良いという事にもなりません。ましてや、会員が10年前よりも28%減少しているという事実を直視すれば、目標への甘い取り組みは許されないと考えます。  
民間企業であれ、ボランティア組織であれ、組織である以上は外的環境の悪化を弁明材料にして、組織の拡充を怠ることこそ大問題であり、マイナス志向ではないでしょうか？  
私は自分の信条としてもあくまでもプラス発想に徹し、目標は精神的・抽象的・倫理的な表現を回避して、より具体的に定量化して取り組んでこそ、目標達成への意欲も努力も高まるのであり、達成した時の喜びも倍加するものと考えます。  
余りにも声高に目標推進を求めれば苦痛になる場合もあるでしょうが、施策を良く理解し柔軟に対処することによって苦痛は避けられると思っています。

## Q13. 家族会員の権利は一般会員と同様でも義務は殆どないという矛盾があるのではないのか？

A13. その通りだと思います。家族会員は正会員であり、投票の権利もある一方、例会やアクティビティには出席免除ですから矛盾しているのは間違いありません。  
しかし、国際本部が決定し、複合地区でもB地区でも年次大会で承認した制度です。その矛盾点よりも利点のほうが圧倒的に勝るという判断かと考えています。従って、その矛盾を糾弾することよりも、いろいろな利点を尊重した柔軟な制度が家族会員制度だと肯定的に解釈したほうが良いと思っています。

## Q14. 欧米では家族でというのが当たり前感覚だろうが日本は違う。

A14. 理解できます。しかし、最近の日本も家族ぐるみでという傾向になってきているのではないのでしょうか？  
国際大会やOSEALフォーラムには夫婦で参加する人も多いですし、ガバナーやガバナーエレクトは奥さん帯同が常識です。  
でも、この家族会員制度では家族会員は適宜都合の良い時だけ出れば良いという柔軟な規定ですから、一緒に出席するかどうかは個別に適宜に判断すれば良いことです。

## Q15. 別居している息子を入会させることは出来ないのか？

A15. 国際本部の入会資格は同居が条件になっていますが、別居していても後継者の息子を入れたいケースは大変望ましい事例ですから、クラブ理事会で同居していることにして入会承認するという特別な便宜を図るべきと考えます。後継者には違いないのですから、同居か別居かは大きな問題ではないと思います。

## Q16. 家族会員制度は国際本部が会員増強策として設けた緊急避難的な処置であり、いずれは消滅するのではないのか？

A16. その可能性はまずないでしょう。なぜならば、「家族ぐるみ」という風潮は進行することがあっても退歩するものでもありません。外国ではもう既に家族会員は相当の数になっていますし、国際会長が毎年替わろうが、この制度がなくなるなどは到底考えられません。

## Q17. 332 複合では 3 年間で 150%増強のキャンペーンを始めた。また、国際本部では「GMT＝グローバル・メンバーシップ・チーム」というプロジェクトを編成して会員増強に本格的に取り組み始めたそうだが、B地区もこれに呼応したのか？

A17. B地区は複合や国際本部に先行して目標を掲げました。B地区としても「会員増強」は最大最優先の課題と考えていたからですが、国際本部では会員数第一位のアメリカと第二位の日本が減少していることを憂慮して GMT を発足させたようです。

## Q18. 会員が減っても良いではないか？量よりも質が大事なはずだ。

A18. 質的充実を図っていくことは当然ですが、「数は力なり」です。  
質を維持したとしても会員が減少しては組織が縮小均衡になる危険性があります。又、一定の会員数がなければキャビネット運営も困難になります。  
20年6月末の1,730人が更に減少を続け1,300人程度まで落ち込めばB地区の運営は完全に危険水域です。従って、数の拡大と質の充実を同時に図っていくと考えるべきです。

## Q19. 家族会員の入会式はどうすれば良いのか？

A19. クラブごとに決めれば結構ですが、入会式を行ったほうがより効果的でしょう。但し、戴帽式は帽子を平素は着用しなくなった現在では家族会員については無用に思われますが、それもクラブの判断です。入会式も特段行わず、バッジなどは世帯主の会員を介して本人に渡すようにしても良いかと思えますし、家族例会の時にでも入会を紹介し、バッジなどを渡すセレモニーを設けても良いでしょう。

## Q20. 外国では家族会員は多いのか？

A20. 韓国も台湾も香港も家族会員は全体の20数パーセントです。日本は全国でも現在は300人程度に過ぎません。今年は大幅に増えるでしょう。